

* 竹田市感染症情報(竹田市独自集計) *

10月

令和7年第42週 (10月13日～10月19日)

伝染性紅斑が増加しました

今週の竹田地域の調査医療機関からの報告数は5人と増加しました。第35週(8月下旬)から8週連続で報告が続いています。伝染性紅斑は、いわゆる「リンゴ病」のことです。頬に特徴的な発疹(紅斑)が出現する7～10日ほど前に、発熱やかぜのような症状が現れます。この時期にウイルスの排泄量が最も多く感染力が強くなりますが、頬に紅斑が出た時はほとんどウイルスは排泄されておらず、感染力はほぼ消失しています。二次感染予防が難しいため、日ごろから手洗いや咳エチケットなどの感染対策を行うことが重要です。

初めて感染する女性が妊娠中の場合、胎児に影響する可能性があります。熱や倦怠感の後に発しんが出るなど、疑わしい症状があれば、医療機関へ相談しましょう。

水痘(水ぼうそう)ご注意ください

今週の報告数は2人となりました。豊肥保健所管内でも、定点あたりの報告数が0.67人と増加しています。

大分県全体の定点あたりの報告数は0.25人と、先週の0.31人から減少傾向です。

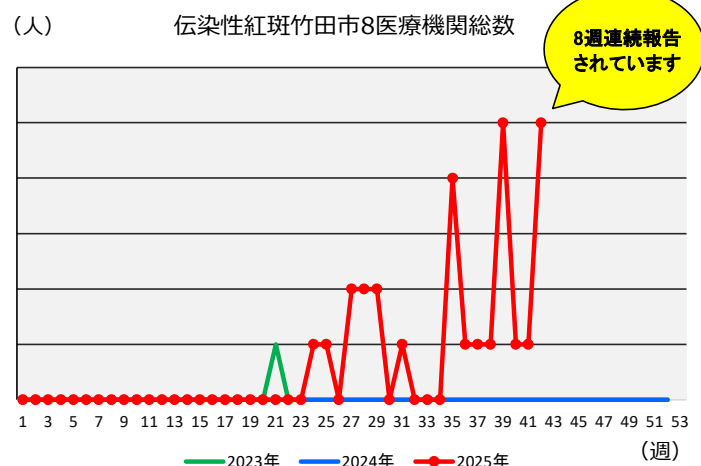
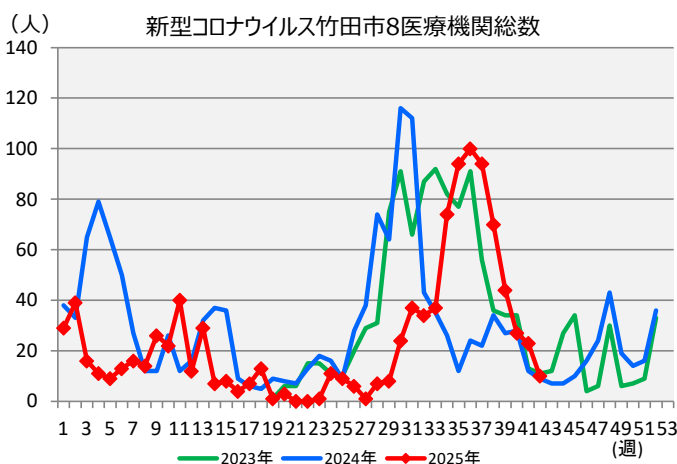
水痘は、いわゆる「水ぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスというウイルスによって引き起こされる感染症です。非常に感染力が強く、空気感染、飛沫感染、接触感染で広がり、潜伏期間は感染から2週間程度です。初めは風邪のような症状が現れ、数日後に顔や体にかゆみを伴う赤い発疹が出現します。水痘は主に小児の病気で、9歳以下での発症が90%以上を占めると言われています。

予防にはワクチン接種が有効で、1回の接種により重症の水痘をほぼ100%予防でき、2回の接種で軽症の水痘も含めてその発症を予防できると考えられています。定期予防接種(1歳の誕生日の前日から3歳の誕生日の前日までの方が対象)がまだの場合は、かかりつけ医にご相談ください。



(第42週) (調査医療機関8か所の総患者数)

疾患名 年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱(プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻しん(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)
	A型	B型	不明																
0歳																			
1～3歳									1										
4～6歳									1		3								
7～9歳							2				1								
10～14歳				1															
15～19歳	2																		
20歳以上				9							1								
今週	2			10			2		2		5								
		2																	
70歳以上(再掲)				7															
先週	1			23				3			1								



でんせんせいこうはん

伝染性紅斑

両頬に赤い発しん（紅斑）が出ることから「リンゴ病」とも呼ばれる小児に多い感染症です。



10～20日の潜伏期間の後
微熱・かぜに似た症状

この時期にウイルスの排出が最も多くなります。



こんな症状がみられます

ほっぺたがリンゴのように
赤くなります（紅斑）

発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。発しんは1週間程度で消失しますが、中には長引いたり、一度消えた発しんが短期間のうちに再び出現したりすることがあります。

予防と対策

手洗い、マスク着用など

基本的な感染症対策を心がけましょう！

伝染性紅斑の主な感染経路は、「飛まつ感染」と「接触感染」です。こどもを感染から守るため、周囲の人も基本的な感染症対策を心がけましょう。

妊娠中又は妊娠の可能性がある方へ

これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感が出現した後に発しんが出るなど、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は、医療機関に相談しましょう。また、感染しても症状がないこと（不顕性感染）もあるため、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、妊婦健診の際に、医師に伝えてください。



詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください

 厚生労働省

感染症対策課 2025年5月作成

